

(629) 多目的制御冷却装置による高強度ラインパイプ用鋼板の製造
(新厚板製造法による厚鋼板の製造 第1報)

川崎製鉄㈱ 水島製鉄所 楠原祐司○吉村茂彦 関根稔弘
千葉製鉄所 中沢正敏 上田依孝

1. 緒言 ソ連における天然ガスのパイプライン輸送は、より高送圧操業が考えられており、そのため使用鋼板もより厚肉化、高強度化していくものと予想される。今回、多目的制御冷却装置を用い、操業圧100気圧を考えた板厚20mm¹⁾、引張強さ65kgf/mm²級のラインパイプ用鋼板を製造した。以下にこの鋼板および造管後の特性について述べる。

2. 供試鋼板および製造方法 供試鋼板の代表的な化学成分をTable1に製造条件をTable2に示す。

化学成分は、Nb-V系と、Ceqの低

減を狙ったTi-B系の2種類とした。製造プロセスとしては、いずれも連鉄スラブを用いて、厚板圧延では制御圧延を行ない、その後、多目的制御冷却装置を用い、制御冷却を行なった。

Table 1 Chemical Composition (wt. %)

	C	Si	Mn	P	S	Cu	Ni	Nb	V	Ti	B	Ceq*
A	0.04	0.26	1.69	0.014	0.003	0.15	0.14	0.043	0.048	0.021	0.0016	0.351
B	0.07	0.32	1.69	0.014	0.002	0.21	0.20	0.039	0.066	-	-	0.392

$$* \text{ Ceq} = \text{C} + \text{Mn}/6 + (\text{V} + \text{Cr} + \text{Mo})/5 + (\text{Cu} + \text{Ni})/15$$

Table 2 Manufacturing Condition

	Process	Finish Cooling Temp. (C)
A	LD-RH degassing -CC	400 - 500
B	- Control Rolling - Control Cooling	450 - 500

3. 材質特性調査結果 今回製造した鋼板のうち代表的なものの機械的性質をTable3に示す。Nb-V,Ti

-Bのいずれの成分系共、鋼板目標値

(YS \geq 52kgf/mm², TS \geq 65kgf/mm², EL \geq 18%, vE-20 \geq 9.6kgf-m, SA-20 \geq 90%)を満足している。また、造管後においても、目標値は十分満足する結果が得られた。Photo 1にミクロ組織を示すが、Ti-Bはベーナイト組織 Nb-Vはフェライト-パラライト(一部ベーナイト)組織である。

Table 3 Mechanical Properties

	Tensile Test *				Impact **	DWTT
	YS _{0.2} (kgf/mm ²)	TS (kgf/mm ²)	EL (%)	YR (%)		
A	53.3	65.5	24	81	19.8	95.94
B	59.7	70.0	21	85	16.2	94.97

* Test specimen : Dia. = 10 mm. GL = 50 mm

** " : 2mm V-notch specimen

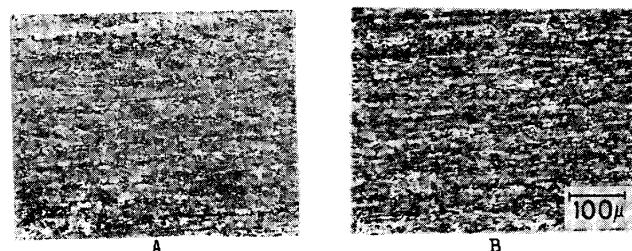


Photo. 1 Microstructure

参考文献 1) 江端ら：本講演会で発表予定